長野日報（2022年10月31日付）
掲載記事は長野日報社の許諾を得て転載しています。

高遠城址公園の「もみじ祭り」満足度・改善点を調査

高遠高と日本福祉大 来場者アンケート

高遠高校（伊那市）情報ビジネスコースの3年生約20人と日本福祉大学（愛知県）経済学部の1、2年生17人は30日、同市高遠町の高遠城址公園で開催されている「もみじ祭り」の来場者にアンケート調査を行った。居住地や祭りへの満足度などを聞き、求められていることや改善点などを調べた。（町田陽）

高遠城址公園もみじ祭りの来場者にアンケートをする高遠高の生徒ら

調査は、連携協定を結ぶ同高校と同大学が合同で2013年から毎年実施。取りまとめた調査結果は伊那市観光協会に提言し、これまでに広報物の改善や祭りの名称変更の決定における参考資料になるなど成果を残している。

新型コロナ感染症の影響で3年ぶりの実施となった今回は、コロナ前後の変化に注目して調査。参加した生徒と学生は同公園への訪問回数や祭りを知ったきっかけなどを聞き、調査用紙に記入してもらった。アンケート調査のほか、滞在時間やどの経路を通るかを調べる行動観察調査も実施。調査後は高遠高校でアンケート入力を行った。

アンケート結果は学生と生徒がそれぞれ分析を行い、市観光協会へ提言するとともに、12月に同大で互いの調査結果を発表し合う予定。今後、イベントを展開するに当たり資料として役立ててもらう。

日本福祉大の鈴木健司准教授は「アンケートを取ると改善点だけでなく、良かった部分も見えてくるので成果を実感できる。合同で行うことで互いの知見も広がれば」と話した。